

# 令和7(2025)年度登録販売者試験問題

## 栃木県

(令和7(2025)年8月28日**後半**)

分野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用(40問)	60問	120分
2	医薬品の適正使用と安全対策(20問)		

◎ 指示があるまで開かないこと。

◎ 注意事項

- この試験問題における「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」(昭和35年法律第145号)は、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記する。
- この試験問題は問61から問120までの60問である。  
解答は、問題1問につき、1～5の1つのみを解答用紙に記入すること。2つ以上記入すると、その問題は採点されず無効となる。
- 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者については、試験を無効とし、または合格を取り消すことがある。
- 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしないこと。また、誤って記入した場合は、消し跡が残らないように消しゴムで完全に消してから、改めて解答を記入すること。解答が解読困難と判断された場合は、採点されず無効となる。
- 退室する際には、解答用紙を裏返して机の上に置き、係員の指示に従うこと。
- この問題用紙は持ち帰ることができる。

◎ 問題用紙は、表紙を含め17枚である。最終ページは、30ページである。  
試験開始後、すぐに確かめること。

## 主な医薬品とその作用（40問）

【問6 1】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度で、ときに脇腹（腹）からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくものの食欲不振、吐きけ、胃炎、胃痛、胃腸虚弱、疲労感、かぜの後期の諸症状に適すとされ、また、胃腸虚弱、胃炎のような消化器症状にも用いられるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）には不向きとされる。

- 1 葛根湯かつこんとう
- 2 小青竜湯しょうせいりゅうとう
- 3 麻黄湯まおうとう
- 4 小柴胡湯しょうさいことう

【問6 2】 解熱鎮痛薬及び頭痛に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 解熱鎮痛薬は、頭痛に対し、症状が軽いうちに服用すると効果的であるので、予防として発症する前から積極的に使用するべきである。
- b 解熱鎮痛薬の連用により頭痛が常態化することはない。
- c 頭痛が頻繁に出現して24時間以上続く場合や、一般用医薬品を使用しても痛みを抑えられない場合は、自己治療で対処できる範囲を超えていると判断される。
- d 頭痛の発症とその程度には、頭痛が起こるのではないかという不安感も含め、心理的な影響が大きい。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

【問 6 3】 次の表は、ある解熱鎮痛薬に含まれている成分の一覧である。

3錠中	
イブプロフェン	195 mg
アセトアミノフェン	195 mg
酸化マグネシウム	70 mg
無水カフェイン	65 mg

この解熱鎮痛薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品におけるイブプロフェンは、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も使用してはならない。
- b イブプロフェンは、プロスタグランジンの産生を抑制することで消化管粘膜の防御機能を高める。
- c アセトアミノフェンは、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることがあり、日頃から酒類（アルコール）をよく摂取する人で起こりやすい。
- d アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

【問 6 4】 眠気を促す薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アルコールとともにジフェンヒドラミン塩酸塩を含む催眠鎮静薬を服用すると、その薬効や副作用が増強されるおそれがある。
- b ブロモバレリル尿素やアリルイソプロピルアセチル尿素は、いずれも脳の興奮を促進し、痛覚を鈍くする作用がある。
- c カノコソウ、サンソウニン、チャボトケイソウ、ホップ等を含む医薬品は、他の鎮静作用があるとされるハーブ（セントジョーンズワート等）を含む食品と併せて摂取すると、薬効が増強、減弱したり、副作用のリスクが高まったりすることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤

【問 6 5】 眠気を防ぐ薬（眠気防止薬）の有効成分として配合されるカフェイン（無水カフェイン、安息香酸ナトリウムカフェイン等を含む）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a カフェインには、作用は弱いながら反復摂取により依存を形成するという性質がある。
- b 服用されたカフェインは、吸収されて循環血液中に移行するが、血液-胎盤関門を通過できないため、妊婦が服用してもカフェインは胎児には到達せず、胎児の発達に影響を及ぼさないことが知られている。
- c カフェインは、脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
- d カフェインには胃液分泌亢進作用があり、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐）が現れることがある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問 6 6】 眠気を防ぐ薬（眠気防止薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 成長期の小児の発育には睡眠が重要であることから、一般用医薬品である眠気防止薬が 15 歳未満の小児に使用されないよう注意が必要である。
- b 細菌やウイルスなどに感染したときに生じる眠気は、発熱と同様、生体防御の重要な一端を担っている病態生理的反応であり、そのようなときに眠気防止薬で睡眠を妨げると、病気の治癒を遅らせるおそれがある。
- c かぜ薬やアレルギー用薬などを使用したことによる眠気を抑えるためには、眠気防止薬を使用することが望ましい。
- d 眠気防止薬には、眠気を抑える成分としてビタミンB<sub>1</sub>（チアミン硝化物、チアミン塩化物塩酸塩等）やビタミンB<sub>2</sub>（リボフラビンリン酸エステルナトリウム等）、パントテン酸カルシウム等が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	正

【問67】 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐きけを抑えることを目的として、ジプロフィリンなどのキサンチン系と呼ばれる成分が配合されている場合がある。
- b プロメタジン塩酸塩等のプロメタジンを含む成分は、外国において、乳児突然死症候群や乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、15歳未満の小児では使用を避ける必要がある。
- c スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、消化管からの吸収が悪く、他の抗コリン成分と比べて脳内へ移行しにくい。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤

【問68】 小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合でも、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととなっている。
- b ゴオウは、ジンチョウゲ科の植物の材、特にその辺材の材質中に黒色の樹脂が沈着した部分を採取したものを基原とする生薬で、鎮静、健胃、強壮などの作用を期待して用いられる。
- c 小児の疳を適応症とする主な漢方処方製剤としては、柴胡加竜骨牡蛎湯、桂枝加竜骨牡蛎湯、抑肝散、抑肝散加陳皮半夏のほか、小建中湯がある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	誤
3	正	正	正
4	誤	誤	正

【問 6 9】 鎮咳去痰薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a メチルシステイン塩酸塩は、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる。
- b ジヒドロコデインリン酸塩は、胃腸の運動を低下させる作用があり、副作用として便秘が現れることがある。
- c セチルピリジニウム塩化物は、口腔咽喉薬の効果を兼ねたトローチ剤やドロップ剤に配合される場合がある。
- d クレマスチンフマル酸塩は、気道粘膜からの粘液分泌を促進する作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 7 0】 鎮咳去痰薬に含まれている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a コデインリン酸塩水和物は、妊娠中に摂取された場合、吸収された成分の一部が血液-胎盤関門を通過して胎児へ移行することが知られている。
- b ハンゲは、中枢性の鎮咳作用を示す生薬成分として配合されている場合がある。
- c メチルエフェドリン塩酸塩は、副交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- d マオウの中枢神経系に対する作用は、同じ気管支拡張成分であるメトキシフェナミン塩酸塩に比べ弱いとされている。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問 7 1】 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a トローチ剤やドロップ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部に行き渡るよう、口の中に含み、噛まずにゆっくり溶かすようにして使用されることが重要である。
- b 噴射式の液剤は、口腔の奥まで届くよう、息を吸いながら噴射して使用する必要がある。
- c 含嗽薬は、水で用時希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- d 口腔咽喉薬には、気管支拡張成分や去痰成分が配合されている製品がある。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、c)      4 (b、d)      5 (c、d)

【問 7 2】 コレステロール及び高コレステロール改善薬の成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a コレステロールは水に溶けにくい物質であるため、血液中では血漿タンパク質と結合したりリポタンパク質となって存在する。
- b 大豆油不けん化物（ソイステロール）は、悪心（吐きけ）、胃部不快感、胸やけ、下痢等の消化器系の副作用が現れることがある。
- c 血液中の高密度リポタンパク質（HDL）が多く、低密度リポタンパク質（LDL）が少ないと、心臓病、肥満や動脈硬化症等の生活習慣病につながる危険性が高くなる。
- d ビタミンE（トコフェロール酢酸エステル）は、コレステロールの生合成抑制と排泄・異化促進作用、中性脂肪抑制作用、過酸化脂質分解作用を有すると言われている。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、c)      4 (b、d)      5 (c、d)

【問 7 3】 貧血用薬（鉄製剤）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品である貧血用薬（鉄製剤）は、貧血の症状がみられる以前から予防的に使用することが適当である。
- b 赤血球が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に必要なビタミン B<sub>6</sub>が配合されている場合がある。
- c 骨髄での造血機能を高める目的で硫酸コバルトが配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	誤	正
3	誤	正	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 7 4】 循環器用薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ユビデカレノンは、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされる。
- b イノシトールヘキサニコチネートは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされ、血流を改善させる作用があるビタミンAと組み合わせて用いられる場合が多い。
- c 高血圧や心疾患に伴う諸症状を改善する一般用医薬品の使用は補助的なものであり、高血圧や心疾患そのものへの対処については、医療機関の受診がなされるなどの対応が必要である。
- d 七物降下湯しちもつこうかとうは、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問 7 5】 強心薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 5～6日間使用して症状の改善がみられない場合には、呼吸器疾患、貧血、精神神経系の疾患等の心臓以外の要因が考えられ、適宜、医療機関の受診を勧奨することが重要である。
- b ジャコウは、強心作用の他、呼吸中枢を鎮静し、息切れを改善させる。
- c ロクジョウは、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正

【問 7 6】 婦人薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって、胎児の先天性異常の発生が報告されているため、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避ける必要がある。
- b 人工的に合成された女性ホルモンの一種であるエチニルエストラジオールは、エストラジオールを補充するもので、<sup>ちつ</sup>膣粘膜又は外陰部に適用されるものがある。
- c 女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる主な漢方処方製剤として、<sup>うんせいいん</sup>温清飲、<sup>かみしょうようざん</sup>加味逍遥散、<sup>しもつとう</sup>四物湯、<sup>とうきしやくやくざん</sup>当归芍薬散があげられるが、いずれの製剤にも構成生薬としてカンゾウが含まれている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	誤	誤

【問 7 7】 内服アレルギー用薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a クロルフェニラミンマレイン酸塩を含む内服薬には覚醒<sup>せい</sup>作用があるため、本剤の服用後に乗物又は機械類の運転操作をしても問題ない。
- b メチルエフェドリン塩酸塩は、依存性がある成分であり、長期間にわたって連用された場合、薬物依存につながるおそれがある。
- c 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、トラネキサム酸やジフェンヒドラミン塩酸塩が配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

【問 7 8】 ヒスタミン、ヒスタミンに類似した物質及び抗ヒスタミン成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 生体内情報伝達物質であるヒスタミンは、脳の下部にある睡眠・覚醒<sup>せい</sup>に関与する部位で神経細胞の刺激を介して、覚醒<sup>せい</sup>の維持や調節を行う働きを担っている。
- b 食品が傷むとヒスタミンやヒスタミンに類似した物質（ヒスタミン様物質）が生成することがあり、そうした食品を摂取することによって生じる蕁麻疹<sup>じんしん</sup>もある。
- c 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きのみを選択的に抑えるので、排尿困難の症状がある人、緑内障の診断を受けた人も問題なく使用できる。
- d 肥満細胞から遊離したヒスタミンは、周囲の器官などに分布する特定のタンパク質（受容体）と反応することで、血管収縮作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	正

【問 79】 鼻に用いる薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アドレナリン作動成分は、交感神経系を刺激して鼻粘膜を通っている血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として配合されている。
- b 鼻粘膜の過敏性、痛みや痒み<sup>かゆ</sup>を抑えることを目的として、リドカイン、リドカイン塩酸塩等の局所麻酔成分が配合されている場合がある。
- c フェニレフリン塩酸塩は、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑制する作用を示し、花粉、ハウスダスト（室内塵<sup>じん</sup>）等による鼻アレルギー症状の緩和を目的として配合されている。
- d ベンザルコニウム塩化物は、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌又はカンジダ等の真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	正

【問 80】 妊娠検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日が過ぎて概ね 1 週目以降の検査が推奨されている。
- b 尿中ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の検出反応は、hCG と特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため、温度の影響を受けることがある。
- c 高濃度のタンパク尿や糖尿の場合、検査結果が偽陽性を示す場合がある。
- d 妊娠検査薬は、妊娠の早期判定の補助として尿中の hCG の有無を調べるものであり、その結果をもって直ちに妊娠しているか否かを断定することはできない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

【問 8 1】 健胃を目的とした生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a センブリは、リンドウ科のセンブリの開花期の全草を基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- b ユウタンは、クマ科の *Ursus arctos* Linné 又はその他近縁動物の胆汁を乾燥したものを基原とする生薬で、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- c チョウジは、フトモモ科のチョウジの根茎を基原とする生薬で、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- d ゲンチアナは、リンドウ科の *Gentiana lutea* Linné の根及び根茎を基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 8 2】 医薬品の相互作用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 駆虫薬とヒマシ油を併用した場合、全身性の副作用が生じる危険性が高まる。
- b 生菌成分が配合された整腸薬に、腸内殺菌成分が配合された止瀉薬<sup>しゃ</sup>が併用された場合、生菌成分の働きが腸内殺菌成分によって弱められる。
- c センナの茎を用いた製品は、微量のセンノシドが含まれることがあるため、瀉下薬<sup>しゃ</sup>と同時期に摂取された場合、複数の瀉下薬<sup>しゃ</sup>を併用した場合と同様な健康被害につながるおそれがある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	正	正	正

【問 8 3】 腸の薬とその成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 腸内細菌のバランスを整えることを目的として、ビフィズス菌等の生菌成分が用いられる。
- b トリメブチンマレイン酸塩の重篤な副作用として、腎機能障害を生じることがある。
- c ロペラミド塩酸塩は、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として用いられる。
- d 大<sup>だい</sup>黄<sup>おう</sup>甘<sup>かん</sup>草<sup>そう</sup>湯<sup>とう</sup>は、便秘、便秘に伴う頭重などの症状の緩和に適すとされる。

1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)

【問 8 4】 次の表は、ある胃腸薬に含まれている成分の一覧である。

1包 (1.3g) 中	
炭酸水素ナトリウム	200 mg
ケイ酸アルミン酸マグネシウム	300 mg
ロートエキス3倍散	30 mg
ソファルコン	100 mg

この胃腸薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 炭酸水素ナトリウムは、炭水化物、脂質、タンパク質、繊維質等の分解に働く酵素を補うことを目的としている。
- b 本剤の服用により、母乳が出にくくなることがある。
- c 本剤の服用により、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることがあるので、肝臓病の診断を受けた人では、使用する前に治療を行っている医師又は薬剤師に相談がなされるべきである。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	正	正	誤

【問 8 5】 次のうち、胃腸鎮痛鎮痙薬に含まれている抗コリン成分として、正しいものの組合せはどれか。

- a メチルベナクチジウム臭化物
- b ジサイクロミン塩酸塩
- c パパベリン塩酸塩
- d アミノ安息香酸エチル

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問 8 6】 浣腸薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ビサコジルは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- b グリセリンが配合された浣腸薬では、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるおそれがある。
- c 注入剤（肛門から薬液を注入するもの）を使用する時の注意点として、できるだけ早く押し込み、注入が終わったら放出部をゆっくり抜き取ることが挙げられる。
- d 浣腸薬は一般に、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けるべきである。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正

【問 8 7】 駆虫薬に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と条虫（いわゆるサナダ虫など）である。
- 2 駆虫薬は、一度に多く服用しても駆虫効果が高まることはなく、かえって副作用が現れやすくなる。
- 3 駆虫薬は腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばない。
- 4 駆虫薬は、食事を摂って消化管内に内容物があるときに使用すると、消化管内内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、空腹時に使用することとされているものが多い。

【問 8 8】 痔<sup>じ</sup>及び痔疾<sup>じ</sup>用薬に含まれている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 直腸粘膜と皮膚の境目となる歯状線より上部の直腸粘膜にできた痔核<sup>じ</sup>は内痔核<sup>じ</sup>と呼ばれ、排便と関係なく、出血や患部の痛みを生じる。
- b 痔<sup>じ</sup>に対しては、痔疾<sup>じ</sup>用薬の使用と併せて、痔<sup>じ</sup>を生じた要因となっている生活習慣の改善等が図られることが重要である。
- c 局所麻酔成分であるアルミニウムクロロヒドロキシアラントイネートは、痔<sup>じ</sup>に伴う痛みや痒み<sup>かゆ</sup>を和らげることを主な目的として用いられる。
- d メチルエフェドリン塩酸塩は、血管収縮作用による止血効果を期待して配合されていることがある。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、c)      4 (b、d)      5 (c、d)

【問 8 9】 泌尿器用薬に含まれている次の成分のうち、利尿作用のほかに、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる生薬成分はどれか。

- 1 モクツウ
- 2 ソウハクヒ
- 3 サンキライ
- 4 ウワウルシ
- 5 キササゲ

【問 9 0】 眼科用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 点眼薬は、一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではなく、むしろ薬液が鼻腔内へ流れ込み、鼻粘膜や喉から吸収されて、副作用を起こしやすくなる。
- b 点眼薬の容器に記載されている使用期限は、未開封の状態におけるものであり、容器が開封されてから長期間を経過した製品は、使用を避けるべきである。
- c 全ての点眼薬は、ソフトコンタクトレンズを装着したままの点眼を避けることとされている。
- d 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状改善を目的とした製品がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

【問 9 1】 次の表は、ある眼科用薬に含まれている有効成分の一覧である。

クロモグリク酸ナトリウム	1 %
クロルフェニラミンマレイン酸塩	0.03 %
プラノプロフェン	0.05 %
コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	0.5 %

この眼科用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からのヒスタミン遊離を抑える作用を示す。
- b クロルフェニラミンマレイン酸塩は、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を示す。
- c プラノプロフェンは、ヒスタミンの働きを抑えることにより、目の痒みを和らげる作用を示す。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	正	正

【問 9 2】 皮膚に用いる消毒薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アクリノールは、真菌、結核菌、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示すが、連鎖球菌、黄色ブドウ球菌に対する殺菌消毒作用はない。
- b クロルヘキシジジングルコン酸塩は、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。
- c ヨウ素系殺菌消毒成分は、外用薬として用いた場合でも、まれにショック（アナフィラキシー）のような全身性の重篤な副作用を生じることがある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	誤	正
3	誤	正	正
4	正	正	誤
5	正	誤	誤

【問 9 3】 外皮用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ケトプロフェンは、ステロイド性抗炎症成分に分類される。
- b ジフェンヒドラミンは、湿疹<sup>しん</sup>、皮膚炎、かぶれ等の一時的かつ部分的な皮膚症状の緩和を目的として用いられるが、副作用として、患部の腫れが現れることがある。
- c アンモニアは、皮下の知覚神経に麻痺<sup>ひ</sup>を起こさせる成分として、主に虫さされによる痒み<sup>かゆ</sup>に用いられるが、皮膚刺激性が強いため、粘膜や目の周りへの使用は避ける必要がある。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	正	正	正
5	誤	誤	正

【問 9 4】 歯や口中に用いる薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 歯痛薬（外用）は、歯の齶蝕（むし歯）による歯痛を応急的に鎮めることを目的としており、歯の齶蝕が修復されることはない。
- b チモールは、齶蝕により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として用いられる局所麻酔成分である。
- c 歯槽膿漏薬には、歯肉溝（歯と歯肉の境目にある溝）での細菌の繁殖を抑える作用（殺菌消毒作用）のほか、抗炎症作用なども期待してヒノキチオールが配合されている場合がある。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	誤
4	正	誤	正

【問 9 5】 禁煙補助剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が増加するため、咀嚼剤は口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
- b 妊婦又は妊娠していると思われる女性は、禁煙することが推奨されるため、積極的に禁煙補助剤を使用することが望ましい。
- c アドレナリン作動成分が配合された医薬品（鎮咳去痰薬、鼻炎用薬等）との併用により、アドレナリン作動成分の作用を減弱させるおそれがある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	正	誤
5	誤	誤	誤

【問 9 6】 滋養強壯保健薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ビタミンB<sub>6</sub>主薬製剤は、口角炎（唇の両端の腫れ・ひび割れ）、口唇炎（唇の腫れ・ひび割れ）、口内炎の症状の緩和に用いられる。
- b システインは、皮膚におけるメラニンの生成を抑えるとともに、皮膚の新陳代謝を活発にしてメラニンの排出を促す働きがあるとされる。
- c アミノエチルスルホン酸（タウリン）は、軟骨組織の主成分で、軟骨成分を形成及び修復する働きがあるとされる。
- d インヨウカクは、イネ科のハトムギの種皮を除いた種子を基原とする生薬で、肌荒れやいぼに用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

【問 9 7】 漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 漢方処方は、処方全体としての適用性等、その性質からみて処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。
- b 漢方薬を使用する場合、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。
- c 漢方処方製剤は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。
- d 生薬成分の中には、食品（ハーブ等）として流通しているものもあるため、漢方処方製剤を販売する際は、食品として当該生薬成分を摂取していると思われる人に対して、漢方処方製剤の適正使用が促されることが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

【問 9 8】 消毒薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- b サラシ粉などの塩素系殺菌消毒成分は、その酸化力で一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示し、皮膚刺激性が弱いため、専ら人体の消毒に用いられる。
- c 消毒薬が誤って皮膚に付着した場合、速やかに酸はアルカリで中和し、アルカリは酸で中和する処置を行う。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 9 9】 衛生害虫の種類と防除に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 燻蒸<sup>くん</sup>処理は、ゴキブリの卵内にも医薬品の成分が浸透するため、殺虫効果が高い。
- b シラミは、種類ごとに宿主を厳密に選択しないため、ペット等に寄生しているシラミによる被害がしばしば発生している。
- c トコジラミは、シラミの一種でなくカメムシ目に属する昆虫で、ナンキンムシとも呼ばれる。
- d 屋内塵性<sup>じん</sup>ダニであるヒョウヒダニ類やケナガコナダニは、ヒトを刺すことはないが、ダニの糞<sup>ふん</sup>や死骸がアレルギーとなって気管支喘息<sup>ぜん</sup>やアトピー性皮膚炎などを引き起こすことがある。

1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)      5 (c、d)

【問100】 殺虫剤・忌避剤とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 殺虫剤の使用に当たっては、殺虫作用に対する抵抗性が生じるのを避けるため、同じ殺虫成分を長期間連用せず、いくつかの殺虫成分を順番に使用していくことが望ましい。
- b ピレスロイド系殺虫成分は、除虫菊の成分から開発された成分で、比較的速やかに自然分解して残効性が低い。
- c カーバメイト系殺虫成分は、アセチルコリンエステラーゼと不可逆的に結合してその働きを阻害する。
- d ディートは、年齢による使用制限がない忌避成分で、蚊やマダニなどに対して効果を発揮する。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

## 医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 医薬品の適正使用情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品は、効能・効果、用法・用量、起こり得る副作用等、その適正な使用のために必要な情報（適正使用情報）を伴って初めて医薬品としての機能を発揮するものである。
- b 要指導医薬品又は一般用医薬品の場合、添付文書や製品表示に記載されている適正使用情報は、一般の生活者に理解しやすい平易な表現でなされている。
- c 一般用医薬品は、薬剤師、登録販売者その他の医薬関係者から提供された情報に基づき、一般の生活者が購入し、自己の判断で使用するものである。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、医薬品を購入し、又は使用する生活者の状況に関わらず添付文書に記載されている内容全てを説明する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	誤

【問102】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 病気の予防・症状の改善につながる事項（いわゆる「養生訓」）は、一般の生活者に分かりやすく示すために、必ず記載しなければならない。
- b 添付文書の販売名の上部に、「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと。また、必要なときに読めるよう大切に保存すること。」等の文言が記載されている。
- c 添付文書には、医薬品の有効成分の名称及び分量の記載と併せ、添加物として配合されている成分も記載されている（人体に直接使用しない検査薬等を除く）。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	誤	誤

【問 1 0 3】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「相談すること」の項目に「妊娠又は妊娠していると思われる人」と記載されている医薬品は、ヒトにおける具体的な悪影響が判明しているものに限定されている。
- b 一般的な副作用として記載されている症状であっても、発疹や発赤<sup>しん</sup>などのように、重篤な副作用の初期症状である可能性がある。
- c 局所に適用する医薬品の添付文書には、患部の状態によっては症状を悪化させたり、誤った部位に使用すると副作用を生じたりするおそれがあるため、使用を避けるべき患部の状態、適用部位等に分けて簡潔に記載されている。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	正	誤	正

【問 1 0 4】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「その他の注意」の項目には、容認される軽微な症状について、「次の症状が現れることがある」として記載されている。
- b 妊娠検査薬では、専門家による購入者等への情報提供の参考として、検出感度も併せて記載されている。
- c 抗ヒスタミン薬を服用した際の眠気のように薬理作用から発現が予測され、容認される軽微な症状の持続又は増強がみられた場合には、いったん使用を中止した上で専門家に相談する旨が記載されている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	誤
3	誤	誤	誤
4	正	正	正
5	誤	正	正

【問 1 0 5】 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a シロップ剤は、室温との急な温度差で変質するおそれがあるため、冷蔵庫内で保管してはならない。
- b エアゾール製品の添付文書には、「保管及び取扱い上の注意」の項目中に高圧ガス保安法（昭和 26 年法律第 204 号）に基づく注意事項が記載されている。
- c 点眼薬の添付文書には、複数の使用者間で使い回されると、使用に際して薬液に細菌汚染があった場合に、別の使用者に感染するおそれがあるため、添付文書には「他の人と共用しないこと」と記載されている。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	正	誤	正

【問 1 0 6】 一般用医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 配置販売される医薬品の使用期限の表示は、「配置期限」として記載される場合がある。
- b 1 回服用量中 0.1 mL を超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
- c すべての一般用医薬品について、使用期限の法的な表示義務がある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	誤
3	正	正	誤
4	誤	正	誤

【問 1 0 7】 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 本制度は、医薬品の使用、販売等に携わり、副作用等が疑われる事例に直接に接する医薬関係者からの情報を広く収集することによって、医薬品の安全対策のより着実な実施を図ることを目的としている。
- b 医薬関係者は、医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、その旨を厚生労働大臣に報告しなければならない。
- c 登録販売者は、本制度に基づく報告を行う医薬関係者として位置づけられている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	正	正

【問 1 0 8】 緊急安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 緊急安全性情報は、A 4 サイズの黄色地の印刷物で、イエローレターとも呼ばれる。
- b 緊急安全性情報の対象になるのは医薬品のみであり、医療機器は対象にならない。
- c 小柴胡湯しょうさいことうによる間質性肺炎に関する緊急安全性情報のように、一般用医薬品に係る緊急安全性情報が発出されたことがある。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	誤	誤	正
3	誤	誤	誤
4	正	正	誤
5	正	誤	正

【問 1 0 9】 (独) 医薬品医療機器総合機構のホームページ情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品の承認情報が掲載されている。
- b 医薬品等の製品回収に関する情報は掲載されていない。
- c 製造販売業者等や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報が掲載されている。
- d 要指導医薬品の添付文書情報は掲載されているが、一般用医薬品の添付文書情報は掲載されていない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 1 1 0】 医薬品の添付文書情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 添付文書の内容は、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、2年に1回、必ず改訂される。
- b 一般用医薬品の添付文書に「使用上の注意」として記載される内容は、配合成分等の記載からある程度読み取ることが可能である。
- c 購入者等が抱く疑問等に対する答えは添付文書に記載されていることが多く、そうした相談対応において、添付文書情報は有用である。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	誤

【問 1 1 1】 次の表は、ある制酸薬に含まれている成分の一覧である。

3包 (3.84g) 中	
銅クロロフィリンカリウム	120 mg
無水リン酸水素カルシウム	1,020 mg
沈降炭酸カルシウム	1,020 mg
水酸化マグネシウム	960 mg
ロートエキス	30 mg

次のうち、この制酸薬の添付文書の「相談すること」の項目中に「次の診断を受けた人」として記載されている基礎疾患等はどれか。

- 1 全身性エリテマトーデス
- 2 心臓病
- 3 貧血
- 4 糖尿病
- 5 肝臓病

【問 1 1 2】 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に記載されるアレルギーの既往歴と、それに関連する主な成分・薬効群の正誤について、正しい組合せはどれか。

	アレルギー既往歴		主な成分・薬効群等
a	喘息 <sup>ぜん</sup> を起こしたことがある人	—	インドメタシンが配合された外用鎮痛消炎薬
b	牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人	—	リゾチーム塩酸塩
c	チアプロフェン酸を含有する解熱鎮痛薬によるアレルギー症状を起こしたことがある人	—	ケトプロフェンが配合された外用鎮痛消炎薬
d	オクトクリレンを含有する製品によるアレルギー症状を起こしたことがある人	—	ロペラミド塩酸塩

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

【問 1 1 3】 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「15 歳未満の小児」と記載されている主な成分・薬効群等として、誤っているものはどれか。

- 1 サリチル酸ナトリウム
- 2 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬（睡眠改善薬）
- 3 アミノ安息香酸エチル
- 4 オキセサゼイン
- 5 アスピリン

【問 1 1 4】 一般用医薬品の添付文書に「相談すること」と記載されている対象者と、それに関連する主な成分・薬効群等との関係の正誤について、正しい組合せはどれか。

	対象者		主な成分・薬効群等
a	授乳中の人	—	ロペラミド塩酸塩
b	甲状腺機能障害の診断を受けた人	—	アスピリン
c	高齢者	—	カンゾウが配合された内服薬 （1日用量がカンゾウとして1g以上を含有する場合）
d	妊娠3ヶ月以内の妊婦、妊娠していると思われる人又は妊娠を希望する人	—	ビタミンA主薬製剤

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	正

【問 1 1 5】 次の医薬品成分のうち、一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「次の症状がある人」として「前立腺肥大による排尿困難」と記載されているものはどれか。

- 1 カフェイン
- 2 プソイドエフェドリン塩酸塩
- 3 インドメタシン
- 4 しゃくやくかんぞうとう芍薬甘草湯
- 5 水酸化アルミニウムゲル

【問 1 1 6】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品の副作用による疾病のため、入院治療が必要と認められるが、やむをえず自宅療養を行った場合は、給付対象とならない。
- b 障害年金の給付には請求期限はない。
- c 健康被害が医薬品の副作用によるものかどうかなど、医学的薬学的判断を要する事項について薬事審議会の諮問・答申を経て、厚生労働大臣が判定した結果に基づいて、医療費等の給付が行われる。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	正	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	誤

【問 1 1 7】 医薬品 P L センターに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、医薬品 P L センターへの相談が推奨される。
- b 医薬品 P L センターは、消費者から医薬品又は医薬部外品に関する苦情について申立ての相談を受け付けているが、健康被害に関する苦情以外の損害については、申立ての相談を受け付けていない。
- c 医薬品 P L センターは、平成 7 年 7 月の製造物責任法の施行に伴い、日本製薬団体連合会が開設した。
- d 医薬品 P L センターは、苦情を申し立てた消費者が製造販売元の企業と交渉するに当たって、公平・中立な立場に立ち、交渉の仲介や調整・あっせんを行い、裁判によらずに迅速な解決に導くことを目的としている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

【問 1 1 8】 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 1 項の規定に基づき、医薬品の製造販売業者が、その製造販売した医薬品について行う副作用等の報告において、15 日以内に厚生労働大臣に報告することとされている事項に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 外国における製造、輸入又は販売の中止、回収、廃棄その他の保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するための措置の実施。
- 2 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、使用上の注意から予測できるもので、重篤（死亡を除く）であり、新有効成分含有医薬品として承認後 2 年以内の国内事例。
- 3 医薬品によるものと疑われる感染症症例の発生のうち、使用上の注意から予測できるもので重篤（死亡を含む）な国内事例。
- 4 副作用症例・感染症の発生傾向が著しく変化したことを示す研究報告。

【問 1 1 9】 次のうち、医薬品副作用被害救済制度の対象となる医薬品として、正しいものはどれか。

- 1 日本薬局方収載医薬品であるワセリン
- 2 人体に直接使用する殺菌消毒剤
- 3 一般用検査薬
- 4 殺虫剤（人体に直接使用するものを除く）
- 5 殺鼠<sup>そ</sup>剤（人体に直接使用するものを除く）

【問 1 2 0】 医薬品の適正使用のための啓発活動に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年 10 月 17 日～23 日の 1 週間を「薬と健康の週間」としている。
- b 医薬品医療機器等法第 68 条の 3 において、「国、都道府県、保健所を設置する市及び特別区は、関係機関及び関係団体の協力の下に、医薬品、医療機器及び再生医療等製品の適正な使用に関する啓発及び知識の普及に努める」と規定されている。
- c 薬物乱用防止を一層推進するため、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が毎年 6 月 20 日～7 月 19 日までの 1 ヶ月間実施されている。
- d 医薬品の適正使用の重要性に関する啓発は、内容が正しく理解されないおそれがあるため、小中学生に行うべきではない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正